

<全体分析>

試験時間 90 分

解答問題数 4 題

解答形式

全問 論述式.

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

出題の特徴

定理や一般的事実の証明が出題される。①

入試改革を踏まえた出題

一つの問題を複数の方法で解かせる問題が出題された。②

その他トピックス

② の①と②は完全に別の問題である。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
①	式と証明	数学Ⅱ	相加平均・相乗平均・調和平均の関係式	やや易
②	(1) 図形と計量 ベクトル	数学Ⅰ	余弦定理	やや易
		数学B	ベクトルの大きさと内積	
	(2) 2次曲線	数学Ⅲ	放物線の定義と方程式	標準
③	数列・極限	数学B	フィボナッチ（型）数列の一般項	標準
		数学Ⅲ	数列の極限	
④	関数の極限 微分法	数学Ⅲ	関数の極限 極値	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

設問は段階的にあるいは誘導性をもって並んでいるため、最終目標を念頭におき各設問の役割を認識しながら解いていくとよいだろう。試験時間を考えると、問題文を正確かつ迅速に読み取ることが大切である。そのためにも、与えられた条件や前の設問をどのように利用するのかを的確に判断することが重要である。用語、定理・公式を正しく認識しておくこと、とりわけ定理・公式については証明にも注意を払っておくことよい。

また、証明問題に限らず論述力が欠かせない。論理的に考え、たどった筋道および問題解決までの要点を数式や図、言葉を利用して明確にイメージする練習をしよう。

今年の②のような複数の方法で解かせる問題は今後も出題される可能性があるため、普段から一つの問題をいろいろな方法で考えてみるのが大切である。